突撃レポート報告 その１

山梨県立大学　人間福祉学部三年　川崎繭子

2007年8月9日
しきしま幼稚園の男性教員である斉藤先生にインタビューを行った。

斉藤先生は両親と奥さん、二人の娘さんの五人家族。人と関われる仕事をしたいという思いがあった先生は、大学時代、小学校の教員免許を取得するため勉強をしていたが、教壇に立っている自分をイメージすることができなかった。そんな中、障害児臨床実習で保育園での実習を行い、そこで生きがいを見つけた。小学校の教員免許は諦め、大学三年から保育士の資格を取るため勉強を始めた。卒業後、児童自立支援施設である甲陽学園(当時の教護院)で六年、福祉事務所でケースワーカーの仕事を二年、その間人事交流で竜王保育園に二年間保育士として働き、その後今のしきしま幼稚園に就職をした。県職員を退職し幼稚園教諭になるということで給料も下がることは承知で、しかし不安はなかった。友人や両親からは反対もされたが、奥さんは斉藤先生のやりたいことを尊重し理解してくれた。

斉藤先生は、子どもたちに対して、自分を表現するということをとても大切にしている。困っていることを表現できないことは辛いし、自分を表現しないと友達との関係でも上手くいかなかったりする。自分を表現し、受け止めてもらうことにより次の表現に進むことができ、そのようにして人とのコミュニケーションを学び、生きる力を身につけていくと斉藤先生は考える。男性保育者だから特別ということはなく、自分にできること、得意なことを上手く生かして保育をしている。女性保育者と比べて損とか、男性であるから嫌な思いをすることもなく、他の先生とも上手くチームワークをとっている。